

## 海外農林業情報 No. 108

## 目次

【世界の食料需給】米国農務省による世界の農産物需給見通し .....	1
本誌に関するお知らせ .....	3

## 【世界の食料需給】米国農務省による世界の農産物需給見通し

今回の「新型コロナウイルス肺炎」の感染に伴って、マスクがドラッグストア等の店頭から消えるという事態が見られます。我が国は、マスクの相当量を中国からの輸入に頼っていますが、丁度花粉の飛翔が始まり、花粉症の人を中心に需要の急増する時期に当たり、また、一部の外国人観光客が大量に買い求めて持ち帰ろうとしたこともあり、各人の不安感に火が付き、競争心理も働いて、個人の在庫積み増しという形で、仮需要が増大したと思われる。また、ネット情報で、「トイレットペーパーやティッシュペーパーの原料輸入（これらはすべて国産原料にもかかわらず）も止まり、これらが無くなる」との誤った情報に、消費者が幻惑され、スーパーなどの店頭からこれらが消えるという事態も見られました。さらに、小中学校の一斉休校が始まり、親が勤務のために子供だけの留守宅に、インスタント食品の需要が急増し、また一部地域ではコメも仮需が増え、スーパーの棚が空になる状況も見られました。コメは、ほとんど国産で、昨年秋の収穫で、今年の供給に何の不安もないはずですが、それでも、家庭の主婦には不安がよぎったようです。食料供給が不安となった場合の社会的混乱は大変なものとなるでしょう。特に、我が国の食料自給率が4割を切る状況では、海外の需給状況を常におさえておくことが必須となります。

我が国の食料消費で基本となるのは、コメ、小麦等の主食穀物、植物油・豆腐の原料となる大豆、肉類、鶏卵、牛乳などでしょう。また、豚肉・鶏肉、鶏卵の生産コストは、おおきく大豆かす、トウモロコシの等の飼料に占められており、我が国のそれらの生産も輸入飼料に頼っております。我が国の牛乳生産も草資源の他は輸入飼料に頼っております。その意味で、世界のコメ、小麦、トウモロコシ、大豆の需給状況をおえておくことが基本になります。また、我が国へのこれらの主要供給国である米国、豪州、ブラジル等の南米諸国の状況が重要になります。これらの基本的な情報はFAOがまとめておりますが、米国のシカゴの穀物取引所の価格が、先物取引のヘッジ機能を通して世界の指標となっており、それへの共通情報として、米国農務省（USDA）の需給見通しが大きな意味を持っております。南半球の生産状況も明らかになってきている3月の情報では、全般的に今穀物年度の需給は楽観的で、食料に関する限り、需給に不安はないと判断されております。それぞれの品目の状況は次の通りです（3月10日発表、2019/20年度の11回目の見通し）。

## 小麦

世界の生産量は、インドやアルゼンチンでの増加がトルコや豪州での減少を打ち消して前月より上方修正され、7億6,449万トンと、前年度を上回る（対前年度比4.5%増）見通しとなりました。インドの生産量は1億360万トンと史上最高となる見通しです。世界の消費量は前年度より増加する見通しですが、生産量が消費量を上回る結果、期末在庫量は、前月より下方修正されたものの前年度より増加し、2億8,710万トン（対前年度比3.4%増）と史上最高となる見通しです。そのうち中国が52%を占めます。

## トウモロコシ

世界の生産量は、南アフリカで前月より上方修正されたものの、前年度を下回る11億1,201万トン（対前年度比1.0%減）と見通されます。消費量も、前年度より減少する見通しで、世界の生産量が消費量を下回り、期末在庫量は2億9,734万トンと前月より上方修正したものの、対前年度で減少する（対前年度比7.3%減）見通しです。

## コメ

世界の生産量は、インドの増産により前月より上方修正され4億9,931万トン（精米）と前年度と変わらず（対前年度比0.0%減）の見通しとなり、消費量を上回っており、期末在庫量は1億8,230万トン（精米）と、前年度より増加する（対前年度比4.0%増）見通しです。

## 大豆

世界の生産量は、ブラジルとアルゼンチンで前月より上方修正されましたが、世界全体では前年度より減少し、3億4,176万トン（対前年度比4.7%減）となる見通しです。世界の生産量が消費量を下回るため、期末在庫量は前年度より減少し1億244万トン（対前年度比8.4%減）となる見通しです。

以上が3月10日の米国農務省による世界の農産物需給見通しの概要です。最近の新型コロナウイルスによる影響は特に触れられていませんが、直近のシカゴ大豆相場は、2月半ばに9ドル/bu近くまで上昇したものの、ブラジルの豊作を受けた米国産の輸出減退懸念とともに、新型コロナウイルスによる需要減の懸念から値を下げ、8ドル/bu台後半で推移しています。

また、このことも上記需給見通しには特に触れられていませんが、中国では、アフリカ豚熱（African swine fever; ASF）が蔓延しており、思い切った殺処分が行われ、豚の飼育頭数が急減しているようです。これによる飼料用トウモロコシの需要減が予想されておりますが、中国では豚肉が肉類消費の中心になっていることから、輸入が相当増加すると見込まれ、これへの供給のために、米国、カナダ、メキシコ等での豚肉の増産が見込まれますので、

その飼料用として、トウモロコシ等の需要が増えると思われます。なお、豚は、肥育6か月位で出荷できますので、世界的な豚肉供給不足にはならないと思われます。

<参考リンク>

World Agricultural Supply and Demand Estimates (USDA)

<https://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/index.htm>

海外食料需給インフォメーション（農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/index.html>

（文責：藤岡 典夫）

### 本紙に関するお知らせ

『海外農林業情報』は、これまで世界の貿易関係および食料需給の動向、JAICAFの海外協力案件の紹介等について Web およびメールを通じて発信してきました。JAICAFでは、これとは別に、国連食糧農業機関（FAO）の情報を中心に世界の農林水産業に関するトピックを内容とする情報誌『世界の農林水産』（季刊）を刊行してきましたが、2020年4月以降はこれが廃刊となり、新たにニュースレター『JAICAF Newsletter』（季刊）を発行することになりました。

『JAICAF Newsletter』では、JAICAFの事業紹介およびFAOの資料を含む世界の農林水産業に関する情報を掲載することにしており、これに伴い、これまで『海外農林業情報』でお伝えしてきた内容については、今後は『JAICAF Newsletter』の中に組み入れる形で発信いたします。

『JAICAF Newsletter』の第1号は今年6月頃の発行を予定しています。本紙はメールでの配信は行わず、JAICAFウェブサイト（[www.jaicaf.or.jp](http://www.jaicaf.or.jp)）に掲載することとしておりますので、ご関心のある方は、お手数ですが直接ウェブサイトを訪問いただきますよう、お願い申し上げます。（なお、当協会の正会員および賛助会員には、印刷物をお届けいたします。）

---

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空（から）メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。 E-mail アドレス：[deskb@jaicaf.or.jp](mailto:deskb@jaicaf.or.jp)  
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後2週間以内に届かない場合は、お手数ですが03-5772-7880（担当：森・西野）までお電話下さいますようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

**発行：（公社）国際農林業協働協会（JAICAF）**

**〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目10-39 赤坂KSAビル3階**